

平成 11 年度天敵等による害虫防除モデル事業成績書

宮崎県病虫害防除所

1. 目的

施設水耕栽培トマトにおいて、マメハモグリバエの天敵利用技術及び非散布型コナジラミ防除剤（ラノーテープ）によるコナジラミ類の防除について実証する。

2. 方法

(1) 圃場 宮崎市池内 A 氏農家圃場

(2) 面積 天敵利用区 1500 m²

(3) 耕種概要

品種：中玉トマト

定植：平成 11 年 8 月 28 日（天敵利用区）

(4) 利用天敵

イサエアヒメコバチ、ハモグリコマユバチ

(5) 薬剤および天敵の使用

天敵放飼日：定植日の 8 月 28 日、9 月 3 日、同 10 日、同 18 日

コナジラミ類の防除については、ラノーテープを設置した。

放飼量：イサエアヒメコバチ：187 頭 / 15 a / 回

ハモグリコマユバチ：187 頭 / 15 a / 回

ラノーテープ：40 m × 12 列

(6) 調査方法：マメハモグリバエは予めマークした 20 株について被害葉を調査した。コナジラミ類は予めマークした 20 株について寄生幼虫数を調査した。下葉の摘葉は平成 12 年 1 月中旬より行った。

(7) 調査期間：平成 11 年 8 月 24 日から平成 12 年 3 月 27 日

3. 結果の概要

(1) マメハモグリバエによる被害小葉率は、定植後 2 ヶ月から増加したが、10% 以内の被害小葉率に抑えることができた。（図 1）

(2) 黄色粘着板によるマメハモグリバエの誘殺数は、11 月中旬から増加をはじめ、12 月 17 日には 151 頭が誘殺された。被害小葉率も 7.15% と高まったため、12 月 18 日にトリガード液剤を散布した。1 月 6 日には調査期間中最多の 919 頭が誘殺されたが、その後は減少した。（図 1）

(3) 黄色粘着板によるコナジラミ類の誘殺数は、調査期間をとおして低く推移し、低密度に抑えることができた。コナジラミ類の寄生幼虫については、確認できなかった。（図 2）

(4) 対象害虫以外の発生状況

定植後からトマトサビダニが発生し、11 月中旬以降被害が目立ち始めたため、11 月下旬にケルセン乳剤 40 を散布した。

1 月下旬から、黄色粘着板にアザミウマ類が多数誘殺されるようになり、2 月に入ってからは被害葉が目立ち始めたため 3 月 7 日、14 日にマッチ乳剤、3 月 21 日、25 日にモスピラン水和剤、4 月 6 日にカスケード乳剤を散布した。アザミウマの種については、ダイズウスイロアザミウマが主体であった。

4 . 農薬費の概算、使用回数
別表のとおり

5 . 考察

天敵及びラノーテープに対する農家の意見としては、労力の軽減、農薬散布による自己被曝の軽減、減農薬栽培の観点から高い評価が得られた。しかし、一方で殺虫剤の散布が制限されてくるためアザミウマ類、アブラムシ類、サビダニ等対象害虫以外の害虫の発生が増加することが問題となる。このため、害虫の防除を天敵だけに頼るのでなく、化学農薬（殺虫剤）と組み合わせて、天敵の対象害虫以外の害虫の発生も抑えたいということであった。

今後の課題としては、

天敵及びラノーテープの資材費の低減

対象害虫以外の害虫の発生の抑制

減農薬栽培もしくは天敵利用栽培作物としての販売経路の確立

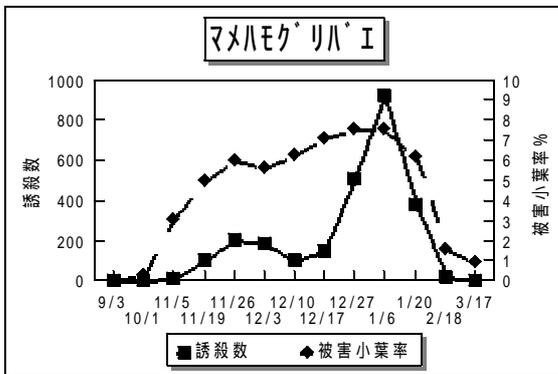


図 1) マメハモク'リハ' I の誘殺数及び被害小葉率

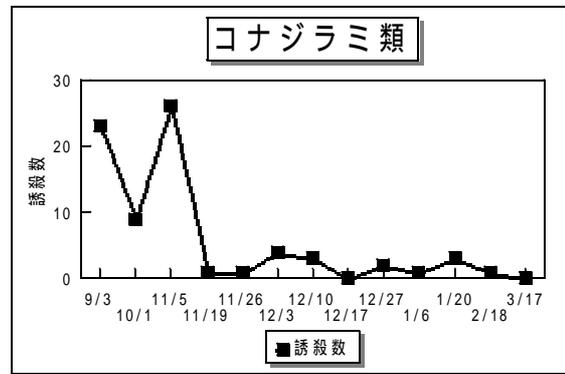


図 2) コナジラミ類の被害小葉率